

インタビュー ①

(掲載企業は50音順)

「日本品質管理賞」に輝く! 歯科医療用器材一筋! 社是である「施無畏」の精神と3つの経営理念を基に

JUSE-StatWorks®/V4.0 PCライセンスが活躍中

株式会社ジーシー

創業者の一人でいらっしゃる中尾清氏が提唱した社是として、「施無畏(せむい)」という言葉が掲げられています。ジーシー殿ではこの教えを基に、いずれの部署に所属していても個我を離れてお互いに敬愛するなかまの集団として行動し、またお客様の立場にたち、お客様からみた価値の実現を第一に考えた真の製品づくりを実践されています(図1)。

ジーシー殿は、当初3人の創業者の熱き想いによる創業の3つの精神

① 国民のお役に立つ

② 自分の持つ技術を活用する

③ 資本家の力を借りることなく「なかま」の力を結集するに基づき、歯科医療材料の国産化をめざして1921年に設立されました。

若き化学者達の夢を実現、社名をGeneral Chemicalを略したジーシー化学研究所として都心に歯科用セメントの研究に着手され、翌年2月11日、最初の製品を発表されたが失敗(粉末が粗く硬化時点が判然としなかった)、以来この日を自戒を込めてジーシー殿の創立記念日とされました。

その後、歯科材料以外にも歯科機械分野にも進出され、1991年、創業70周年にCIを導入、社名を株式会社ジーシーと変更され、2000年にデミング賞実施賞を受賞され、グループ会社である株式会社ジーシーデンタルプロダクツの2003年デミング賞実施賞受賞をスタートとし、新たなGQMの輪の拡大を図っています。

その成果が実り、2004年には社長のリーダーシップの下でTQMを継続し経営成果を上げたその象徴ともいえる「日本品質管理賞」を受賞されています。



向かって左が(株)ジーシー 経営企画室室長 武石健嗣室長、右が技術開発課 佐藤公彦係長

ジーシー殿は21世紀を「健康世紀」と位置づけられ、世界の人々に「口腔を通じての健康」を提供するためにGQM(GCのTQM)を核とした経営を実践し、新しい価値を見出しています。

この度、GQMと統計パッケージがうまく連動されたジーシー殿をお訪ねし、お話を伺いました。

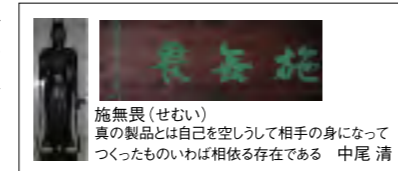


図1 社是

1. GQMを経営管理手法の核とし、ビジョン経営を推進

ジーシー殿は、社是における経営理念にもとづくビジョン経営を推進しています(図2)。2010年ビジョンと2010年長期目標を掲げ、MISSION、STRATEGICS、TACTICSと展開し、各機能別、個別事業別に中期経営計画を立案、部方針の展開を図り、実施計画を作成され、より詳細な実施計画書を全社全部署まで徹底、作成されています。

また、中期経営計画及び年度社長方針達成のために、社長診断の充実を図っています。社長診断の年間実施回数は2004年の1年間で44回に達し、各診断での改善指示課題は150テーマ以上にのぼっています。診断実施翌日には診断委員より、1部署3~6項目の改善課題が納期に決められた上で提示され、受審部署は5W1Hにてその課題について実施計画を作成し、改善に向けて日々努力をされています。

このような徹底的な診断と各部署がPDCAをまわしながらの活動を実施してきている成果として、2004年度の改善課題解決

率は80パーセントを超えてきています。



図2 ビジョン経営の概要(フロー図)

2. 「世界No.1!製品」づくりと新しい分野への進出を実現

2003年度より管理職を中心としたクロスファンクショナルチーム(CFT)活動に重点を置かれ、全社重要課題の取り組みを始められました。特に研究員と営業マンとの連携を密にされ、CFT活動の中でニーズの掘り出しとコア技術の整合を図られ、ボトルネックの早期解決を最優先課題として取り組まれ、商品化スピードの確保を可能とされました。この活動の成果として、世界最初となる「G-ボンド」の発売を実現、この分野のシェアを大きく伸ばすことに成功されました。



図3 主力製品「G-ボンド」

3. 「ひと」こそが企業力の源泉として! 「なかま」の会社

ジーシー殿は3人の若き化学者が創業されたことは前述のとおりですが、その精神からジーシーで働く人々を「なかま」と呼んでいます。これは創業以来80有余年の長きに渡った精神ともいえます。

ジーシー殿は、自分自身の力を出せる環境づくりのため、創意工夫をされています。その一つとして1991年から実施している「社員満足度調査」を実施し、その内容を統計的手法により解析し社内に公開、対策に結びつけています。

4. GQM活動を支えるツール JUSE-StatWorksとの出会い

その中で「もう少し合理的な教育方法、解析方法はないか?」と統計の専門家に相談をされた際、「統計パッケージを使うと教育効果が上がるよ」とのアドバイスをいただき、いろいろな業者の比較・調査を行い最終的に出会ったのが「JUSE-StatWorks(PCライセンス)」でした。

使い始めはなかなか大変だったようですが、使い始めて慣れてくると「グラフが楽に描ける」、「解析した結果がすぐわかる」、「今まで手で計算していたがソフトを使うと計算が楽」、「グラフがすぐに発表用原稿に貼り付けられる」そして「データ構造をしっかりと見るクセがついた」など、教育効果にますます弾みがついてきたそうです。

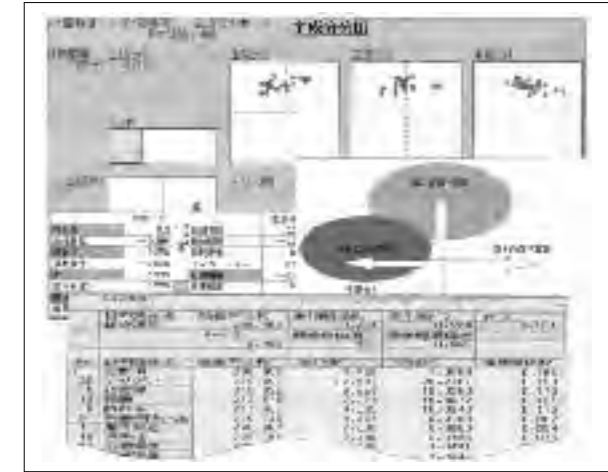


図4 StatWorksで解析された社員満足度解析

5. 改善した活動を社外へも公開

~JUSEパッケージ活用事例シンポジウムへの発表~

(株)日本科学技術研究所で毎年実施している「JUSEパッケージ活用事例シンポジウム」に、ユーザー代表として2005年2月にその成果を発表して下さいました。

テーマは「歯科模型用石膏製品のくぼみ不良の改善」、発表者は技術開発課の佐藤公彦氏です。

内容は、顧客クレームから始まる歯科模型用石膏製品のくぼみ不良の改善事例です。石膏の表面に「なぜくぼみができるのか」、現状調査と要因分析、実験計画法の適用へと続いており、最適な試作配合の実現プロセスはとても興味深い内容です。日頃、皆様がお世話になっている歯科医療もこのような内容で話をして下さると身近に感じます。

なお、発表された内容は(株)日本科学技術研究所のホームページでご覧頂けます。



第14回JUSEパッケージ活用事例シンポジウムで発表された佐藤氏

6. 今後StatWorksに期待すること

教育を推進する立場からVOC(顧客の声)を拾ってみると

- ① グラフの編集機能をもう少し使いやすくしてほしい
- ② 編集機能(他のソフトとの連携)を充実してほしい

などとの要望をいただきました。まさに社内・外問わず発表を定期的に行っている生のご意見を頂きました。

今後社内では、統計ソフトを活用しながら草の根的な改善活動の実行を考えていらっしゃいます。

(本稿は株式会社ジーシー 経営企画室 室長 武石健嗣氏、技術開発課 係長 佐藤公彦氏よりお話を聞き、日科技研が取り纏めたものです。)

掲載されている著作物の著作権については、制作した当事者に帰属します。

著作者の許可なく営利・非営利・イントラネットを問わず、本著作物の複製・転用・販売等を禁止します。

所属および役職等は、公開当時のものです。

■公開資料ページ

弊社ウェブページで各種資料をご覧ください <http://www.i-juse.co.jp/statistics/jirei/>

■お問い合わせ先

(株)日科技研 数理事業部 パッケージサポート係 <http://www.i-juse.co.jp/statistics/support/contact.html>